

ザンビア滞在安全の手引き



在ザンビア日本国大使館
2021年3月改訂

目次

1 序言

2 防犯の手引き

(1) 当地の治安情勢

- ア 政治的対立
- イ 迷信・デマの流布による地域の不安定化
- ウ 南アフリカでの排他主義に対する抗議活動
- エ アジア人に対する偏見

(2) 地理的治安の傾向

(3) 最近の犯罪発生状況

- ア 犯罪統計
- イ 邦人被害状況

(3) 防犯のための具体的注意事項

- ア 住居
- イ 外出時
- ウ 生活
- エ その他

(4) 交通事情

- ア 概要
- イ 対策
- ウ 事故発生時の対応

(5) テロ・誘拐対策

- ア 概要
- イ 日本人・日本権益に対する脅威
- ウ 対策

(6) 緊急連絡先

3 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

(1) 平素の準備と心構え

- ア 概要
- イ 在留届の提出
- ウ 緊急避難場所

(2) 緊急時の行動

- ア 緊急時の連絡要領
- イ 情報の把握と共有
- ウ 身の安全の確保

(3) 緊急事態に備えてのチェックリスト

(4) ルサカ防犯マップ

1 序言

ザンビア共和国（以下、ザンビア）は、8 か国と国境を接し、アフリカ大陸の南部に位置する内陸国です。1964 年の独立以降、国内 73 の民族を束ねる必要性という所与の困難に直面しつつ、対内的な平和と国家としての一体性を維持してきました。周辺国の内戦や南アのアパルトヘイト、ジンバブエの独裁等とは対照的に、初代カウンダ大統領（任期 1964～1991）時代の一党支配からの脱却以降、複数政党制による民主的な選挙に立脚した政府が国政を担っています。

2020年から世界的に続く新型コロナウイルス感染症対策はザンビアにも影響を及ぼしましたが、ロックダウンを実施することはなく、困難に直面しつつも経済社会活動は継続しています。また、国民生活にも影響が及ぶことが懸念される場所ですが、現在のところ、右が大きく治安情勢に影響しているようには見えません。

一方で、今年の8月に大統領総選挙が実施されるので、各政党関係団体の活動が徐々に活発化しています。昨年12月23日には、野党UPND党首の警察出頭に伴う同政党関係者による示威行動が起こり、発砲事件によって2名が死亡しました。選挙運動に伴う治安情勢には注意する必要があります。

私たち在外邦人は、基本的に自らの安全を自らの手で守らなければなりません。平素からの心掛けと予防策の如何によっては危険度を軽減することが可能であり、自身だけでなくご家族の安全確保のために安全への配慮を維持して下さい。

このマニュアルが防犯上・危機管理上、皆様の安全対策に多少なりとも役立つことができれば幸いです。

2 防犯の手引き

(1) 当地の治安情勢

ザンビアはアフリカの中でも比較的安全な国とされていますが、100万人当たりの主要な犯罪発生件数を見ると、殺人と強盗は日本よりも高くなっています（下記（3）ア（イ）参照）。邦人がよく利用するショッピングモール等においても窃盗、置き引き、ひったくり、スリ等の一般犯罪や車上荒らし等が起きています。以下に、当国で特に注意すべき治安情勢に影響を与え得る事象について下記に記載いたします。

ア 政治的対立

過去の大統領選挙の際には、選挙期間中に政党間や警察との間で衝突が起きたことが報告されています。序言で触れたように、2020年12月には、野党UPND党首の警察出頭の際のデモの中で発砲事件により男性2名が亡くなる事件が発生しました。

イ 迷信・デマの流布による地域の不安定化

2019年末から2020年初頭にかけて、コッパーベルト州で起きた3件の殺人が発端となり地域住民による騒擾が発生しました。その際、毒ガスが撒かれたという噂が広がり、同種の事件がザンビア各地に広がりました。その後の警察の調査によると毒ガスが撒かれたという事実はなく、噂が発端となって群集心理により暴徒化した住民が破壊・暴力行為に及んだとのことです。事実が判明するまでの間、不安が口コミで広がることへの注意が必要であり、当局の公式発表の内容をよく確認する必要があります。

ウ 南アフリカでの排他主義に対する抗議活動

南アフリカにおいて政府がザンビア人を含む外国労働者を排除しようとする動きに反対して、暴動やデモ活動等が起きることがあります。2019年10月には、抗議活動を行っていたデモ参加の一部が暴徒化し、当地の南アフリカ高等弁務官事務所（日本大使公邸裏側の道に所在）前で車両に放火するなど暴徒化する事件が発生しました。

エ アジア人に対する偏見

新型コロナウイルスがアジアから拡散したとの認識が一般的であることも一因として、アジア人を見ると石を投げられたり暴言をはかれたりする例があります。

（2）地理的治安の傾向

ルサカ市において、タウン地域（Town area）、カムワラ地域（Kamwala）やチボリヤ（Chibolya）などの地域は、他の地域に比べても体感治安が急激に悪化します。また、コンパウンド（Compound）と呼ばれる低所得者居住地域では常時群衆が車道を歩行していて車での通行も困難になります。タウン地域のマーケットは旅行ガイドでも紹介されていますが、身边には十分な注意が必要です。こうした地域においては、徒歩での移動や夜間の外出において特に注意する必要があります。また、地方都市も基本的に同様の傾向が見られます。このほか、こうした地域の人々のマスク着用率は著しく低いため、新型コロナウイルス感染のリスクが高いことにも留意が必要です。

（3）最近の犯罪発生状況

ア 犯罪統計

（ア）年間犯罪件数

年間犯罪件数の増加率を比較すると、2015年85,692件から2019年74,432件に減少している一方、地域別では北西部州、中央州及びムチンガ州においては増加傾向が見られます。

また、一日あたりの犯罪件数では、ルサカ州（50件/日）及びコッパーベルト州（69件/日）において多くの犯罪が発生しています。また、100万人当たりの犯罪件数では、多くの人口を擁するルサカ州（5,678件）及びコッパーベルト州（9,553件）だけでなく、人口が少ない北西部州（5,691件）においても多くの犯罪が発生していることが分かります。

(イ) 主要犯罪件数 (2019 年、件数/100 万人)

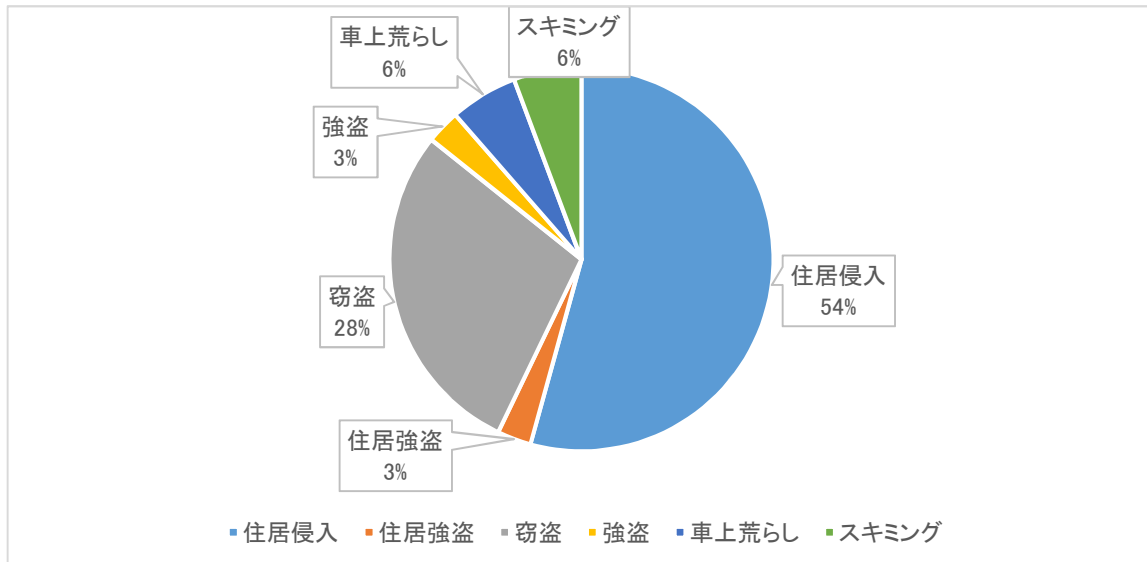
	殺人	強姦	車両窃盗	放火	強盗	窃盗	合計
ルサカ	62	15	93	17	148	1,163	1,498
コッパーベルト	52	20	40	15	43	1,096	1,266
南部	58	18	12	21	55	817	982
北西部	47	12	23	71	32	1,206	1,392
東部	33	6	20	32	95	592	779
西部	74	10	33	46	28	402	593
中央部	61	9	13	23	45	498	648
ルアプラ	34	8	7	85	25	523	682
北部	39	2	0	20	1	264	326
ムチンガ	95	13	5	29	28	295	464
平均	54	12	33	30	63	763	956
日本	8	11	58	7	12	565	661

2019 年主要犯罪種別発生件数を各州の人口で比較したものです。主要犯罪の日本との比較で見ると、日本の 1.5 倍、但し殺人・強盗という凶悪犯罪が多く発生しています。

イ 邦人被害状況

(ア) 邦人被害件数一覧表 (2018 年～2020 年)

	住居侵入	住居強盗	窃盗	強盗	車上荒らし	スキミング	合計
件数	19	1	10	1	2	2	35



当館に寄せられた近年 3 年間の邦人被害は、住居侵入が非常に多く半分を占めており、次いで、スリや置き引きなどの窃盗被害、車上荒らしやスキミング被害も発生しています。また、住居に押し入り、邦人をトイレに押し込めて金品を強奪した事件や邦人が保持していた携帯電話を強奪した事件も報告されています。

(イ) 2020 年邦人被害状況

- a 平日夜、ルサカ州ルサカ市タウンエリアの公道を車両で移動中、信号停車した際に

助手席に座っていた邦人がスマホを奪われる窃盗被害にあった。車両窓の隙間（上部）から加害者の手が車内に侵入し、同邦人が操作していたスマホを強奪。邦人に身体的被害なし。

b 昼12時頃、ルサカ州ルサカ市内のショッピングモール付近の道路を歩行中、邦人が背負っていたリュックから携帯電話が無くなっていたことに気づいた。バス停付近を通り過ぎた際、何人かが近づいてきたため、その時に搾取された可能性が高い。邦人に身体的被害はなし。

c 17時頃、ショッピングモール駐車場に車両を駐車していたところ、鍵をこじ開けられて後部座席に残置していたバック類を窃盗され、携帯電話、電子手帳等が搾取された。邦人に身体的被害はなし。

d 東部州チパタにおいて、朝から勤務先で勤務していた邦人が16時頃帰宅した際、自宅裏口及びグリルドアの一部が破壊され、寝室の窓に設置されていたバーグラマーの一部が壊されていた。自宅に入ると寝室以外の部屋は無傷だったが、寝室内の棚に置いていた現金1,500ZMW、100USD及びリュック、洋服数点が窃盗される被害に遭った。邦人に身体的被害はなし。

e 未明にルサカ州の邦人住居において、外出中に引き出しに残置していた財布から現金約7,000ZMWが抜き取られていた。住居には鍵がかかっており、現金以外は取られていない。メイド及び大家が同居居の鍵を保有していた。邦人に身体的被害はなし。

f 19時頃、ルサカ州ルサカ市当館正面において、不審者4名組の集団がトラック1両で当館前に乗り付け、当館増改築工事のため、関連邦人企業が雇用する謝金警備員のための警備用ボックスを無断で運びだそうとしていたところ、当館門衛所の謝金警備員及び警備会社の緊急対応チームが同集団の活動を阻止した。その後、1名が警察に逮捕され、その他は車両で逃走した。なお、同集団は当地電話会社の社員を名乗っていた。

g 15時頃、ルサカ州ルサカ市レオパーズヒル道において邦人が車両を運転中、与党P Fのデモ隊車列（20台ほど）が邦人車両を追い抜く際、デモ隊車両から身を乗り出した関係者1名が車両側面を殴打した。人的・物的被害はなし。

（3）防犯のための具体的注意事項

ア 住居

（ア）犯罪傾向

旅行や一時帰国等で長期不在にする時、ないし就寝中に住居に侵入され、現金、貴重品などを盗まれることがあります。また、敷地内の使用人や警備員が犯罪者を指南して、共同で犯行を行う事例も報告されています。

（イ）対策

① 立地場所

- ・周辺に治安の悪い場所はないか
- ・セキュリティ対策は万全か
- ・警備会社は信頼に足るか

② 家の構造

- ・外壁は十分な高さ（2.5m程度）があり、有刺鉄線または電気柵が設置されているか
- ・敷地内に防犯灯が設置され機能しているか
- ・窓や扉に堅固なバーグラバーが設置されているか

③ 外出・長期不在、就寝時

- ・カーテン等で室内を暴露しない、貴重品を外から見えるところに置かない
- ・休暇で長期間不在にするという情報を不必要に漏洩しない
- ・新聞や水等の定期配達を一時停止する

イ 外出時

(ア) 犯罪傾向

① 車両窃盗

交差点等での停車時に、開いた窓から車内に手を入れられて、座席に置いてあるバッグや手に持っていた携帯電話を盗まれることがあります。

② 車上荒らし

ショッピングセンターの大型駐車場に駐車中のところ、窓や鍵を壊されて車内からパソコン、携帯電話等の貴重品を奪われることがあります。

(イ) 対策

① 車両窃盗

- ・不必要な夜間の行動は避ける
- ・減速・停止する前に周囲を確認する
- ・不審人物、不審車が近くにいる場合は窓の閉鎖、鍵の施錠を確認して、可能であれば停車せずに通り過ぎる

② 車上荒らし

- ・貴重品を車内に残置しない
- ・モール入口や監視カメラが設置されているところに駐車する
- ・鍵の施錠、窓の閉鎖を確実に確認する
- ・警備員の行動に不審な点がないか気をつける

ウ 生活

(ア) 犯罪傾向

ホテルや飲食店で食事中に、椅子の下等にバックを置いていたら盗られる、または路上で徒歩移動中に背負っていたリュックから携帯電話や財布を盗まれることがあります。あるいは、同じく歩行中に肩掛けバックをカッター等で切られて財布を盗まれる事象も報告されています。

(イ) 対策

- ・不必要な夜間の行動は避ける
- ・不必要な貴重品の持ち歩きは避ける
- ・バックは肌に触れるように携行して周囲に注意を払う

エ その他

(ア) 犯罪傾向

① タクシー利用時

タクシー乗車後に突然見ず知らずの乗客が乗車し見知らぬところに連れて行かれ、貴重品を奪われた後、女性が強姦被害にあうことがあります。

② スキミング

空港やショッピングモールに設置されている ATM を使用した際、クレジットカード情報を盗まれて、無断でカード決済に使用されることがあります。

(イ) 対策

① タクシー利用時

- ・ 政府系タクシー（車体部にオレンジ色の線が入っている）を利用する
- ・ 信頼できる人から運転手を紹介して貰う
- ・ 運転手情報が管理されているアプリ等を利用する

② スキミング

- ・ カード挿入口に不審な装置が設置させていないか
- ・ レジ等でカードを使用する際は目前でカード読込端末を操作させる
- ・ なお、当地の銀行で発行されるデビットカードは取引後に SMS で通知があります。

(4) 交通事情

ア 概要

当地では公共の場において歩行者、バイクよりも車が優先されることが一般的です。また、当地の運転技量やマナーは低く、無理な追い越しや急停車、逆走、一時不停止や飲酒運転などが横行しています。特にミニバスの運転マナーが悪く、上記のような悪質な走行をすることがあります。また、道路状況は決して良くなく、路面の陥没、バンプがあったり、事前案内のない工事による車線規制が行われることがあります。

イ 対策

(ア) 常に防衛運転に心がけ、自ら事故を起こさないようにする

(イ) 整備不良車両やミニバス等から距離を取って走行し、事故に巻き込まれないよう注意する

ウ 事故発生時の対応

(ア) 周囲の安全を確認する。周辺に多数の住民が集まり暴徒化する場合は、身の安全確保のために車外に出ない、又は安全な地域（最寄りの警察署等）に避難する

(イ) 怪我人がいないか確認して救助する

(ウ) 警察に通報する（2（6）緊急連絡先参照）

(エ) 相手の氏名、連絡先、免許証番号、保険番号、車番を記録する

(5) テロ・誘拐対策

ア 概要

ザンビアにおいては、テロ組織・反政府組織や国際的なテロ組織の関連組織の活動は確認されていません。しかしながら、周辺国（モザンビーク、ソマリア等）のテロ組織がザンビ

アに浸透してくる可能性について、治安当局は警戒を強めています。

当地での外国人子女を標的にした誘拐被害は近年確認されておりませんが、過去には、2014年当地ドイツ大使館員子女がドライバーにより営利目的で連れ去られる事件が発生しており十分な注意が必要です。なお、ザンビア人子女を狙った強姦は数件発生しており、2020年2月ムチンガ州において14歳少女が男性4名に集団強姦され、また、同年8月同州において11歳少女が不審者に強姦の上殺害される事件が発生しています。

イ 日本人・日本権益に対する脅威

現在のところザンビアにおけるテロの脅威は高くなく、また、日本人が標的にされる可能性も高くはありません。しかしながら、偶発的な事件・事故の際の巻き添えとなる可能性は十分に考えられますので右に対応した注意を怠らないことが重要です。一般的に、テロによる日本人の被害は、シリアやアフガニスタンといった渡航中止勧告や退避勧告が発出されている国・地域に限りません。テロは、日本人が数多く渡航する欧米やアジアをはじめとする世界中で発生しており、これまでもチュニジア、ベルギー、バングラデシュ、スリランカ等においてテロによる日本人の被害が確認されています。

近年では、単独犯によるテロや一般市民が多く集まる公共交通機関等（ソフトターゲット）を標的としたテロが頻発するなど、テロの発生を予測し未然に防ぐことがますます困難となっています。

ウ 対策

- (ア) 海外安全ホームページや報道等により最新の治安情報の入手に努める
- (イ) 多数の人が集まる場所に近づかない
- (ウ) 危険な地域や夜間の不要な外出をしない
- (エ) 不審物は不用意に触らず警察に連絡する

(6) 緊急連絡先

連絡先（優先順位）		携帯電話	職場
1	警察		991
	医療機関		999
	消防		993
	事故処理		983
2	大使館領事①	0977-77-1205	0211-251-555
3	大使館領事②	0977-77-1206	
4	大使館医務官	0977-77-1207	
5	外務省 海外邦人安全課	+81-3-5501-8160（課直通）	
		+81-3-3580-3311（本省代表番号）	
UTH		0955-876-164	
(ザンビア大学付属教育病院)			
Fairview Hospital		0211-373-000, 0950-203-159	
(フェアビュー・ホスピタル)			
Care for Business Medical Center		0211-254-398, 0211-252-917	
(ケア・フォー・ビジネス・メディカルセンター)			
Dr. Agarwal's Eye Hospital		0211-237-560, 0953-489-312	
(Dr. アガワルズ・アイ・ホスピタル)			
Victoria Hospital		0211-290-985, 0955-255-798	
(ビクトリア・ホスピタル)			
Parl White Dental Clinic		0211-220-828, 0211-220-837, 0977-606-364	
(パールホワイト・デンタル・クリニック)			
St. John Paul Orthopaedic Hospital		0211-254-601, 0975-206-986	
(セント・ジョンポール・ホスピタル)			
Bupilo Family Health Clinic		0962-124384, 0978-784590	
(ブピロ・ファミリー・ヘルスクリニック)			
Medland Hospital		0761-101-600	
(メドランド・ホスピタル)			
Forestpark Specialist Hospital		0965-273-649	
(フォレストパーク・スペシャリスト・ホスピタル)			
Livingstone General Hospital (リビングストーン)		—	
(リビングストーン・ジェネラル・ホスピタル)			
ES (リビングストーン)		0977-740-306	

3 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

(1) 平素の準備と心構え

ア 概要

日頃からご自身や家族の安全に常に注意を払われていることが、犯罪や事件に巻き込まれないための最大の防御術です。緊急事態発生に至っても、まず不断の心構えに立ち返ってください。その上で、大使館との連絡手段の確保、緊急時の行動要領の確認、物の準備（「緊急事態に備えてのチェックリスト」を参照）を確認して下さい。

イ 在留届の提出

在留届は緊急事態が発生した際、大使館との連絡確保のために極めて重要です。また、連絡先が変更になった場合、必ずその変更の旨を連絡して下さい。

ウ 緊急避難場所

緊急事態発生時のザンビアにおける邦人の緊急避難場所として大使館、大使公邸及び JICA 事務所があります。詳細は 3 (4) ルサカ防犯マップを参照して下さい。

(2) 緊急時の行動

ア 緊急時の連絡要領

(ア) 安否確認要領

緊急事態が発生した場合は、大使館から安否確認等の連絡をします。この際、当初 SMS 及び e-mail で一斉送信をしますので、必ず家族を含めた安否確認を実施して返信して下さい。

(イ) 大使館からのラジオ

公共の連絡手段が使用できない恐れがある場合、大使館からの情報伝達手段の一つとして FM ラジオ（大使館から約 35km 圏内）を使用します。周波数は、99.70MHz、予備周波数が 100.00MHz、100.90MHz です。ラジオを準備していただければ役に立つ場合があります。

イ 情報の把握と共有

(ア) 大使館が危険性のあるデモ・暴動等に関する情報を入手した場合、迅速に領事メールやフェイスブックにて皆様にお知らせします。

(イ) 皆様の方でこうした情報を察知した場合には、速やかに大使館に連絡頂くようお願いいたします。

ウ 身の安全の確保

(ア) 緊急時において、信頼できる情報の入手に努めて下さい。特に当国では不正確な情報やデマが拡散することが多々あるので注意が必要です。

(イ) 事態を冷静に把握し、リスクの高い行動を避けて下さい。

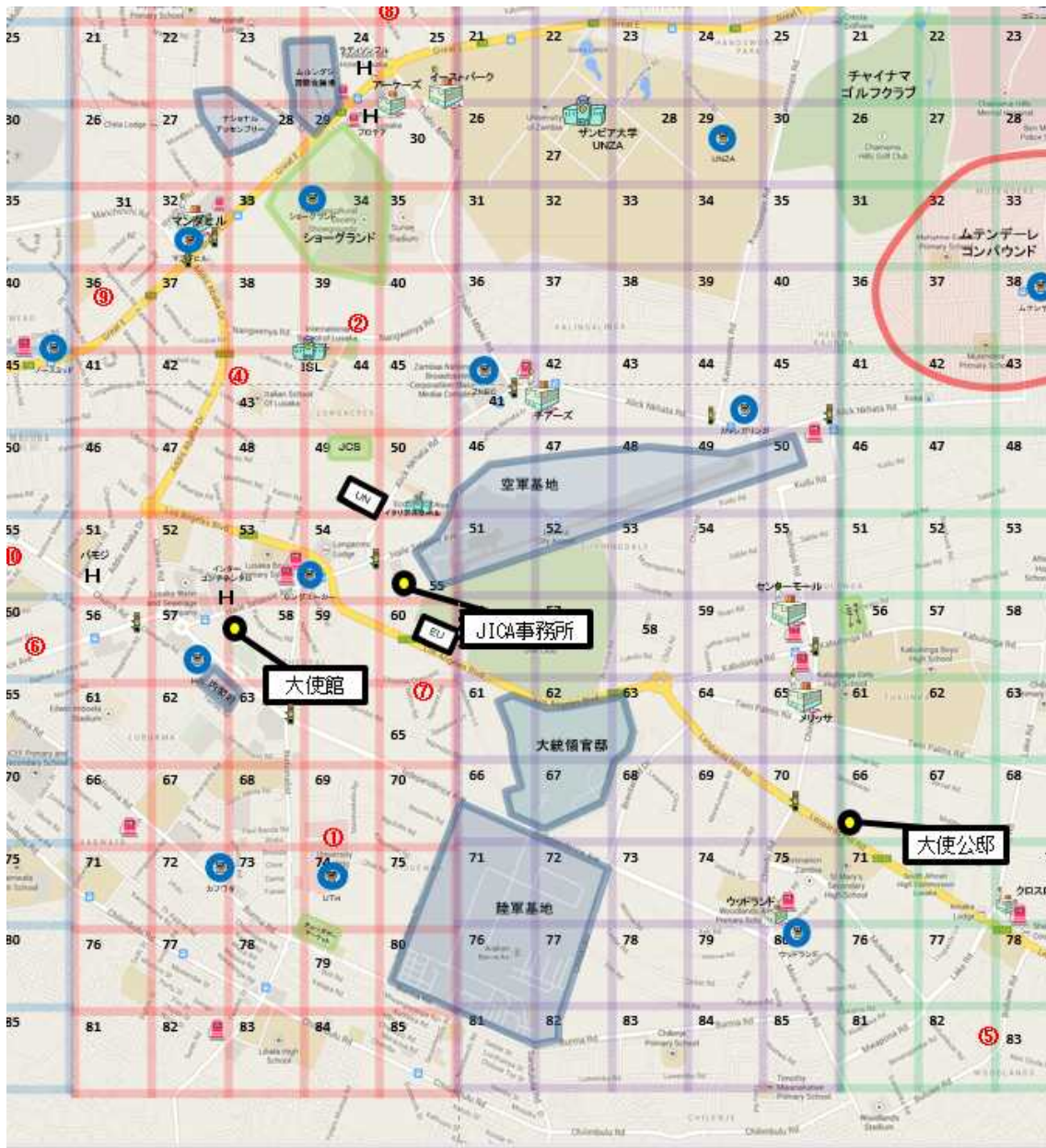
(ウ) 大使館から情報提供があった場合、要すればその際の伝達事項に従って退避等を検討下さい。

(エ) 国内外、市内等の安全な地域（知人宅、ホテル等）へ移動した後は、必ず大使館に安否を連絡下さい。

(3) 緊急事態に備えてのチェックリスト

項目	内容	レ点
旅券	6か月以上の残存有効期限があるか (ない場合は大使館へ再発給の申請をしてください)	
	所持人記入欄の記入	
ID 外国人登録書 滞在許可証	非常時に持ち出すことができるか	
貴重品	現金 (家族全員が10日程度生活できる外貨)	
	貴金属	
	銀行カード	
	クレジットカード (紛失時の連絡先含む)	
自動車等	整備状況は良好か	
	燃料は十分に入っているか	
	懐中電灯・地図・ティッシュ等の備え	
	自動車のない人は近くに住む自動車所有者との連絡態勢は確保されているか。必要なときに同乗できるように相談しているか。	
携行品	衣類・着替え (華美な物は避ける)	
	履き物	
	洗面用具	
	飲料水	
	非常用食料 ※しばらく自宅待機することを想定し、家族が1週間から10日程度生活できる量を備蓄 ※上記から移動時用物品を選別できるように	
医薬品	家庭用常備薬	
	外傷薬	
	消毒用石けん	
	衛生綿・包帯	
	絆創膏	
	常時服用している薬 (※ある人)	
ラジオ	電池の残量は十分にあるか	
その他	懐中電灯	
	必要な炊事用具	
	マッチ・ろうそく・ライター	
	缶切り・栓抜き	
	予備バッテリー (電池等)	

(4) ルサカ防犯マップ



【在留邦人向け防犯マップ】

- ・ 大使館：赤 58
- ・ 大使公邸：緑 66
- ・ JICA 事務所：赤 55